

# 検査ニュース

No.118

ご挨拶

平素より、佐賀県医師会成人病予防センター業務には、格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。  
今回は、「検査項目のご紹介」についてご案内申し上げます。

佐賀県医師会成人病予防センター  
担当理事 志田 正典

## ● L型脂肪酸結合蛋白(L-FABP) (平成 23 年 8 月 1 日から保険適用)

L型脂肪酸結合蛋白 (Liver-type fatty acid binding protein : L-FABP) は、肝臓・腸管・腎臓に局在する脂肪酸結合蛋白です。尿中の L-FABP は、腎臓の近位尿細管に特異的に発現し、糸球体で濾過された遊離脂肪酸と結合して細胞内の脂肪酸の恒常性を保つなど、エネルギー代謝や脂質代謝に重要な働きをしていると考えられています。

近位尿細管が虚血や酸化ストレスの負荷を受けると、L-FABP の発現が増強し、尿中への排出が増加します。尿中 L-FABP は、障害を受けた結果を示す既存の腎機能マーカーと異なり、尿細管に負荷されたストレスの程度を反映する特徴をもつ新しいバイオマーカーです。

尿中 L-FABP は、糖尿病性腎症において早期から有意に高値を示し、病期の進行や治療に伴い増減するとの報告がされています。今後ますます糖尿病性腎症を中心に増加が予想される慢性腎疾患 (CKD) において、尿中 L-FABP は早期診断やモニタリングの指標として期待されています。

検査項目	採取容器	検体量	所要日数	実施料 判断料	検査方法	基準値及び単位	備考
L型脂肪酸結合蛋白(L-FABP)	ポリスピッツ	部分尿 1.5ml	3~9日	210 ※1	ELISA	クレアチニン換算値 8.4以下 ( $\mu\text{g/gCr}$ )	酸性蓄尿は検査値に影響を及ぼす場合がありますので、避けてください。

※1: 尿・糞便等検査判断料

## ● クオンティフェロン (QFT ゴールド) 検査

結核菌特異蛋白刺激性遊離インターフェロン- $\gamma$  600点 (※5 免疫学的検査判断料)

クオンティフェロンは、結核菌にあって BCG (菌) にはない特異抗原によって血液中のリンパ球を刺激して、インターフェロン- $\gamma$  を放出させ、これを定量することによって結核感染を判定するものです。

### 【使用目的】

全血の結核菌特異蛋白による遊離インターフェロン- $\gamma$  の測定

#### ・ 活動性結核の診断補助

× 線所見や喀痰塗抹標本で結核を確定できず、他の臨床所見等で結核を疑う者

#### ・ 潜在結核の診断補助

- (1) 集団発生時等の感染性結核患者との接触者、または接触者健康診断
- (2) 感染性結核患者との接触機会の多い医療従事者の健康チェック

**注意：採血後、すぐに成人病予防センターへの出検が必要です (要予約)**

